

やまだんの 山田野

52

独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963
TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

健康寿命と平均寿命

副院長 吉田 光宏

COVID-19感染症の今回のパンデミックでは、限られた医療資源に対する対応は、国によって違うようです。日本では、90歳超の患者に体外式膜型人工肺（ECMO）を使用して救命している一方で、スウェーデンでは、80歳以上や70歳代でも腎不全などのリスクファクターがあると適応ではないと判断されています。日本でも治療手段の配分を巡って、医療資源の逼迫状況によっては、医師は胸が張り裂けるような決断を迫られるかもしれません。

胃ろうに関しても、日本と欧米では考え方が違うようで、欧米では、嚥下機能が低下して機能回復が望めない高齢者に胃ろう造設を行うことは少なく、高齢者に対する虐待とする意見もある中で、日本では、胃ろう造設による延命は、普通に受け入れられています。これには、文化や宗教、医療制度の違いがあり、簡単に是非を問うことは難しいですが、日本経済が悪化すれば、このような延命は持続が難しくなってくるでしょう。

さて、平均寿命は伸びましたが、認知症の根本治療薬がない現在、80歳を超えると3割以上、90歳以上では、5割が認知症となるようです。元気に自立して過ごせる期間のことを「健康寿命」と言いますが、これはだいたい75歳前後で、厚生労働省のデータでも男女差はありますが、その様なものです。中には、90歳を超えても矍鑠とした例外的な人もいます。オバマ政権の中核にいたアメリカを代表する医療倫理学者のエゼキエル・エマニュエル医師（ペンシルベニア大学）は、「75歳で寿命の延長、ただそれだけのために薬物治療やワクチンを含む医療介入を受けるという行為をやめる」と述べていました。彼は、現在63歳で12年後に心変わりしてないか注視していきましょう。

先日、法事があり、数年ぶりに菩提寺のご住職にお会いしたのですが、たいそうやつれていて、読経の声量もなく、お話をうかがうと、腰痛があり痛み止めで様子を見ていたが、よくならないので、検査したら「すい臓がん」ということで、手術を受けて現在は抗がん剤治療中とのことでした。跡継ぎの息子さんはまだ大学生とのこと、できる限りお勤めをしているとのことでした。「からだは、正直で「死にとうない」と勝手に頑張ってくれている。自分はそれを邪魔しないように見ている。人は、皆この娑婆で合わんならん事には、合わずには死ねないのや。すべては丁度よいのだ」と仰って笑っておられました。

人生100年時代のプロパガンダにのせられて100年計画をたてて安全に死ぬことを目指すのも、このご住職のようなサレンダーな心境で過ごすのも、いろいろあるでしょうが、気分よく過ごせるチョイスをして、今後もお勤めを果たしたいものです。



北陸荘から独立行政法人国立病院機構北陸病院へ

第1 精神科医師 石崎 恵子

私が当院に赴任したのは昭和54年（1979年）4月のことでした。結婚を機に東京に1年間いましたが富山に帰ることになり当時の金沢大学の教授、山口先生に就職について相談したところ、「北陸荘が良いでしょう」と言われました。たまたま夫の郷里が福光ということもあり「分かりました」と返事をしました。でも『北陸荘ってどこ・・・』という心境でした。それからなぜかこの病院に42年お世話になっています。

今回「やまだん野」に思い出を書いて欲しいとの依頼があり引き受けました。実は「やまだん野」の創刊に関わり原稿集めに大変でした。それが50号を超え考え深いものがあります。



さて思い出はとりとめなく頭に浮かんできますが「あれはいつ頃だったっけ」と記憶の混乱がありました。そういえば【創立五十周年記念誌】があったことを思い出し、なんとか探し出しました。つい見いってしまいました。まず初めて当院に来ることになり（その時は国立療養所北陸病院でした）、S先生に電話しました。当時、運転免許を持っていませんでした。「それじゃ越中山田で降りて 真っ直ぐ歩くとすぐ」という返事でした。指示通りに越中山田で降りてほとんど人家のない道を不安を抱えながら歩くこと25分ようやく正門の咲き誇った桜が見えて来ました。本当にきれいでした。正門からしばらくしてなんと木造の二階建ての建物を見つけました。恐る恐る入ってみると下駄箱がありました。小学校の時と同じだと思いながら案内を請いました。それから病院を案内してもらいましたが、結核病棟も残っており「ええ何じゃ」・・・しかしとりあえずお願いしますと採用されました。周囲を見渡すと雑木林いいえジャングルでした。そこを職員総出で開墾？して散歩道を作り、表の方も整備する毎日でした。その頃を思えば、



『夏草や兵どもの夢枯らすまじ』（パクリ）ですね。

医師も院長、副院長を含め5人で、あとは週1回の応援の先生方に来てもらっていました。学会などで医者が出払うと、外来、病棟、当直まで一人でこなしていました（若かった！）。当時の院長から『精神科に転換して10年余りたったがまだまだ精神科としての基盤がない』と言われ、その後生活療法、作業療法、開放病棟などの立ち上げに関わるように指示されました。しょっちゅう工事をして病棟編成を模索していました。病棟の引っ越しの際、消灯後に備品を移動して当日患者さんの移動をスムーズにできるようにしたこともあります。それでも今でいう多職種チームといいえますか、看護課をはじめ医療職、事務方が精神科の基礎を作ろうと頑張っていました。職員の名前はほとんど分かりました。色々会議もありましたが、懇親会と称して公私ともに親睦を図っていたと思います。

また、准看護学校があり



平成7年の閉校まで『解剖学』の講師をしていました（講師はほとんど病院職員でした）。卒業生はほとんど次の学校に進学しました。その中で当院に就職し、夜間の看護学校に通学する人もあり、国家試験に合格し正看の免許がとれるのを皆で応援しました。今も何人かは残っています。もうベテランの域に達していますが、今まで色々な場面で当院の発展に貢献してくれていると思っています。「もうしばらく、頑張ってね」という気持ちです。昭和58年には、作業療法の立ち上げにかかわり、室内での作業のほか広大な敷地を有効に利用して、農作業を取り入れました。作業療法士、作業療法助手、看護師が患者さんの指導をしながら色々な作物を作りました。養鶏もやっていました。春、竹林では筍を掘り、秋には栗拾いなどもありました。収穫祭と称して患者さんとバーベキューをしたり、カレー、豚汁を作ったりしていました。その頃の看護師さんは病棟業務をする人以外はジャージを着て外仕事に従事していたものです。その畑は今はなく、竹林もわずかに残っている状態です。作業療法棟は最初は木造の管理棟を利用して、鼠が出たり台風の後には吹き込んだ落ち葉の掃除、冬は吹き込んだ雪の後始末をしてから患者さんが来ていました。今は理学療法士も加わりリハビリテーション科になり時の流れを感じます。



また、今も記憶に残っているのは、F先生（若くして亡くなりました）が英文で論文発表する時、所属がSanatorium（サナトリウム）となっていてがっかりしていた姿です。

平成元年1月福光に転居しました。それまでは5年間は車で通勤していました。城端線から見える散居村など楽しみもあり、往復で文庫本1冊は読めました。昭和54年4月11日福光大火の時は初めての当直をしていてそんな大変なこととはつゆ知らず、翌日夫の実家に行ってビックリ。祖母が空襲みたいだったと言っていたのが印象的でした。昭和56年の大雪の時は高岡まで着きましたが、城端線が運休で、タクシーで砺波まで行き、タクシーで乗り継ぎましたが、福光で動かなくなり、線路伝いに歩いて雪にまみれて病院にたどり着きました。大げさにいえば八甲田山死の彷徨ですか？

患者さんとの付き合いも長くなりました。当院に赴任した時からの人もまだ何人かいます。でも多くの患者が社会復帰できないまま鬼籍に入っています。医者としての無力さを痛感しています。

平成16年4月「独立行政法人国立病院機構北陸病院」に改称しました。それをきっかけにというわけでもないのですが、現在、常勤医が脳神経内科医2人、内科医1人、精神科医8人、病棟も大幅な増改築が行われ、古い病棟はほとんどなくなりました。その様子は「やまだん野」の後記で『ある日一本松が消えた』で感傷的に書いたことがあります。

これから北陸病院がその存在感を発揮し、新しい医療の発展に寄与されることを祈ってこの稿を締めくくりたいと思います。

外来担当医表

項 目	月	火	水	木	金
精神科（初診）	石橋・坂本	山村・市川	池田・白石	志摩・坂本	市川・北村
精神科（再診）	山村・白石	白石・池田	石橋・志摩	市川・北村	池田・市川
脳神経内科	吉田	小竹	吉田	吉田・小竹	小竹
内 科	渡辺	渡辺	（渡辺）	（渡辺）	森腰（渡辺）
心療内科				白石	
睡眠外来（初診）			細川	1・3細川、2・4古田	
睡眠外来（再診）	吉田	細川	細川		
専 門 外 来	もの忘れ外来（吉田・坂本・市川・石橋） パーキンソン病外来（吉田・小竹） 遺伝カウンセリング外来（小竹） 認知行動療法外来（うつ、不眠）（白石） 重症心身障害児＜者＞外来（石崎・池田） 禁煙外来（白石） 認知症セカンドオピニオン外来（吉田） ぐっすり外来（白石）				
●診察は完全予約制となっております。地域医療連携室にご相談ください。					
●受付時間・・・8:30～11:30 診療時間・・・9:00～12:00					
【地域医療連携室 直通電話】0763-62-1950					
デイケア	担当：北村				
担 当 医	北村	北村	北村	北村	北村

※ 担当医が不在の場合、当日主の再診医（午前）

看護職員 随時募集中

- *常勤看護師
 - *非常勤看護師……
 - *非常勤看護助手…
- 時間・曜日などは要相談
（週28～32時間内）

採用試験は随時行っています。 病院見学大歓迎！

元気に働ける方、大募集!!!
私たちと一緒に『北陸病院』で
お仕事しませんか。

平日10時から
実施しています。

時間は
要相談



連絡先 独立行政法人国立病院機構北陸病院 庶務班長

〒939-1893 富山県南砺市信末5963
TEL：0763-62-1340（代表）

【交通アクセス】

- ◆交通機関
JR城端線、城端より、タクシーで約5分。
- ◆高速道路
東海北陸自動車道、福光ICより約5分。
- ◆南砺市コミュニティバス
JR城端駅・福光駅より出ています。



独立行政法人 国立病院機構 北陸病院

〒939-1893 富山県南砺市信末5963

TEL 0763-62-1340 FAX 0763-62-3460

ホームページ <https://hokuriku.hosp.go.jp/>

認知症疾患医療センター

睡眠医療センター

【編集・発行】北陸病院

【広報担当】池田・山崎・岡島・梅村